

P214 から 4 ページにわたって「周波数特性のみならず位相や応答特性も補正」「DEQX をマスターすれば高品位な自作スピーカーも」「高性能な DSP 素子と優れたソフトウェア」などの項目で DEQX について詳細に紹介されています。(リポートはデジタル技術にめっちゃ強いオーディオ評論家、三浦孝仁氏) DEQX をもっと知りたい方はすぐに書店で楽しいオーディオ記事満載の AUDIO BASIC 誌を購入して続きをご覧ください。(ここでは参考までに 1 頁のみを公開させて頂きます)

特に自作派にとっては?

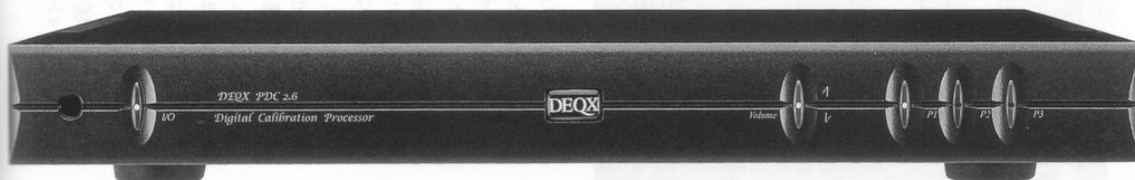
夢のような超多機能機器

DEQX

PDC-2.6とは?

緊急
リポート

文・三浦孝仁



**DEQX
PDC-2.6**
¥498,000

価格はベーシックモデル(プリ機能&マイク無し)。プリ機能&マイク付きのPDC-2.6Pは定価 ¥598,000だが、いずれも直販価格など、詳しくはKurizz-楽房(クリーズ・ラボ)のホームページをご参照いただきたい。 <http://www.kurizz-labo.com/index.htm> ☎0267-45-6166
DEQXのPDC2.6カタログ <http://www.fairlight.co.jp/goods/pdf/DEQXbrochure.pdf>

高度なプロフェッショナルの間では以前から知られていた製品で、スピーカーシステムの特性を最適化し、なおかつ部屋全体の影響を把握してスピーカーの音を理想的な状態に補正する夢のようなオーディオ機器がある。その名前は DEQX (開発メーカーは「デックス」と発音)。その技術開発と製造を行うのは、南半球オーストラリアのシドニーに本拠地を置く DEQX・pty社。私自身は DEQX を数年前から米国ラスベガスで開催される CES (コンシューマー・エレクトロニクスショー) で詳しく見聞して知っていたのだが、これまでオーディオ・ベシック誌で紹介することは考えていなかった。高価な機器であるし、ウインドウズ PC を使用する各機能の設定などが複雑で、一般的なオーディオファイルには不向きな製品だと考えていたからだ。

しかし、本誌の金城編集長は、この DEQX が高度なオーディオ的用途だけでなく、自作スピーカーシステムに対して強力な支援ツールになることを知って興味津々である。そこで、拙稿で DEQX がもたらす驚異的な機能を紹介し、その可能性を理解していただくことにしよう。

高度なプロフェッショナルの間では以前から知られていた製品で、スピーカーシステムの特性を最適化し、なおかつ部屋全体の影響を把握してスピーカーの音を理想的な状態に補正する夢のようなオーディオ機器がある。その名前は DEQX (開発メーカーは「デックス」と発音)。その技術開発と製造を行うのは、南半球オーストラリアのシドニーに本拠地を置く DEQX・pty社。私自身は DEQX を数年前から米国ラスベガスで開催される CES (コンシューマー・エレクトロニクスショー) で詳しく見聞して知っていたのだが、これまでオーディオ・ベシック誌で紹介することは考えていなかった。高価な機器であるし、ウインドウズ PC を使用する各機能の設定などが複雑で、一般的なオーディオファイルには不向きな製品だと考えていたからだ。



DEQX・pty社の主宰者キム・ライリー(Kim Ryrie)氏。彼は鍵盤楽器、とりわけシンセサイザーの分野では有名な人物で、70年代後半にキーボードの歴史を塗り替えたポリフォニック・デジタルサンプリング・キーボード「フェアライト・CM I」の設立者の一人である。フェアライトは音源をデジタルサンプリングして再生できる、恐ろしいほど画期的な世界初の楽器として注目された。その後フェアライトは DAW (デジタル・オーディオ・ワークステーション) の分野に進出して現在も業界のトップランナーである。

スピーカーと部屋の問題点を DSP で解決

DEQX・pty社は、1990年代中頃に設立された。その主宰者キム・ライリー氏は、70年代後半にキーボードの歴史を塗り替えたポリフォニック・デジタルサンプリング・キーボード「フェアライト・CM I」の設立者の一人である。フェアライトの開発過程でデジタルオーディオの可能性と、デジタル処理を行う DSP (デジタル・シグナル・プロセッシング) の無限の可能性に着目して、従来のスピーカーシステムが解決できない位相補正や周波数特性のスムーズ化、そしてスピーカーをセッティングする部屋全体の問題点を、DSP + 専用開発のソフト